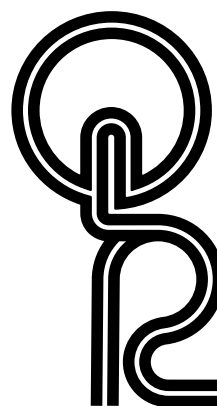


# QR Newsletter



## 第四紀通信

Vol. 13 No.3, 2006



イタリア，ヴェスビオ山。西の外輪山から1944年に流れ出した溶岩（2005年11月29日 鎌田圭子撮影）

Vol. 13 No. 3

June 1, 2006

創立50周年大会案内(第3報)・・・2	募集・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
創立50周年大会シンポジウムのお知らせ・・・・・・・・・・5	紙碑・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
創立50周年記念展示と特別企画展の案内・・・・・・・・・・8	募金のお願いと御礼・・・・・・・・17
シンポジウム・フォーラム・国際会議案内・・・・・・・・・・9	幹事会議事録・・・・・・・・・・18
	会員消息・・・・・・・・・・19

## 日本第四紀学会2006年創立50周年大会のお知らせ(第3報)

今年、日本第四紀学会創立50周年にあたり、2006年大会の内容は50周年記念事業実行委員会によって企画・検討されてまいりました。そして首都大学東京をメイン会場とし、50周年にちなんで4つのシンポジウム(全体のテーマ「人類の環境を第四紀学から考える - 過去からみた現在と未来」)が開催されるほか、記念式典、記念パーティー、巡検などが行われることが決まりました。第四紀学会会員以外にも広く参加を呼びかけます。一般研究発表は既にお知らせしたとおり、ポスター発表のみとなります。

### 1. 日程概略

8月4日(金):

午前 評議員会

午後 シンポジウム1「最終氷期から完新世への急激な環境変動と人類」  
一般研究発表(ポスター)

8月5日(土):

午前 シンポジウム2「鮮新・更新世の日本列島」  
一般研究発表(ポスター)コアタイム

午後 総会、50周年記念式典

夕方 50周年記念パーティー

8月6日(日):

午前 シンポジウム3「過去の間氷期の研究から今後の地球環境の変遷を考える」  
一般研究発表(ポスター)コアタイム

午後 シンポジウム4「環境問題・自然災害を第四紀学から考える」

8月7日(月)~8日(火):

巡検「南関東の第四紀主要サイトをめぐる」

### 2. 会場

一般研究発表(ポスター)、シンポジウム1~シンポジウム4、総会、評議員会、50周年記念式典-----首都大学東京 南大沢キャンパス (<http://www.metro-u.ac.jp/access.htm>)

京王相模原線「南大沢」駅下車、徒歩5分。

\*主会場は小講堂(大学正門入って左手)です。会場の詳細につきましては、次号の第四紀通信でお知らせいたします。

50周年記念パーティー-----京王プラザホテル多摩 (<http://www.keioplaza.co.jp/tama/index.htm>)

京王相模原線、小田急線、多摩モノレール「多摩センター」駅下車、徒歩1分。

### 3. シンポジウムのプログラム

シンポジウムプログラムの詳細につきまして

は、本案内の次に掲示してある「日本第四紀学会2006年創立50周年記念大会シンポジウムのお知らせ」をご覧ください。

### 4. 一般研究発表(ポスター)の発表要領

申込み締切は、6月10日(土)です。まだの方はお急ぎ下さい。申込みの詳細は、第四紀通信前号 Vol.13, No.2 をご参照下さい。

ポスターは大会期間中(8月4日午後~8月6日夕方まで)掲示できる予定です。

ポスターセッションコアタイムとして、8月5日の11時30分から13時30分までと、8月6日の12時から13時30分までを、昼食時間を含めて説明時間帯に設定しています。

ボード面積は1題あたり、縦180cm、横90cmです。

ポスターには発表番号・発表題名・発表者名をポスターのタイトルとして明記してください。発表番号は、次号の第四紀通信にてお知らせします。

ポスター会場でコンピューター・ビデオなどの使用や、画鋏等で掲示できない重量物等の展示を希望される方は、電子メールにて

大会実行委員会事務局長 山崎晴雄

([yamazaki@comp.metro-u.ac.jp](mailto:yamazaki@comp.metro-u.ac.jp))まで連絡してください。

### 5. 参加費・パーティー申し込み等

大会参加費として、会員・非会員を問わず2,000円を申し受けます。当日会場の受付にてお支払い下さい。

講演要旨集は会場で直接販売いたします(予定価格2,000円)。大会終了後通信販売もいたします。詳細は次号の第四紀通信にてお知らせします。

50周年記念パーティー(京王プラザホテル多摩)に参加される方は、人数把握のためあらかじめ予約の申し込みをお願いします。参加費:一般(予約の場合)8,000円、(当日参加)10,000円、学生(予約・当日とも)6,000円。予約は7月20日までに電子メールまたはFaxで首都大学 鈴木毅彦までご連絡下さい(E-mail: [suzukit@comp.metro-u.ac.jp](mailto:suzukit@comp.metro-u.ac.jp), FAX: 0426-77-2589)。

### 6. 巡検案内

巡検「南関東の第四紀主要サイトをめぐる」

2006年8月7日(月)・8日(火) 1泊2日

案内者: 町田 洋・鈴木毅彦・水野清秀・久保純子

日本第四紀学会 2006年創立 50周年大会日程表			
「人類の環境を第四紀学から考える 過去から見た現在と未来」			
会場：首都大学東京南大沢キャンパス（八王子市南大沢）			
	第1日 8月4日（金）	第2日 8月5日（土）	第3日 8月6日（日）
午前		9:00～11:30 シンポジウム2 鮮新・更新世の日本列島 S2-1～S2-6+ 総合討論	9:00～12:00 シンポジウム3 過去の間氷期の研究から今後の地球環境の変遷を考える S3-1～S3-7+ 総合討論
	10:30～12:00 評議員会		
午後	昼 休み	11:30～13:30 ポスターコアタイム （昼休みを含む）	12:00～13:30 ポスターコアタイム （昼休みを含む）
	13:00～13:10 開会挨拶 シンポ趣旨説明		
	13:10～18:00 シンポジウム1 最終氷期から完新世への急激な環境変動と人類 S1-1～S1-12+ 総合討論	13:30～15:00 2006年日本第四紀学会総会	13:30～17:00 シンポジウム4 環境問題・自然災害を第四紀学から考える S4-1～S4-9+ 総合討論
		休憩(15分)	
	15:15～17:00 記念式典・会長講演		
後		移動	17:00～17:10 閉会挨拶
		18:00～20:00 日本第四紀学会創立50周年記念パーティー 会場：京王プラザホテル多摩	

協力者：太田陽子・小野 昭・野口 淳・増  
淵和夫・松島義章・ほか

持ちたいと思います。ベテラン、中堅、若手の  
皆さまのご参加をお待ちします。

#### 巡検の趣旨

日本第四紀学会の50年の歴史のなかで、南関東地域は多くの第四紀研究の模式地を生み、研究の進展を支えてきました。今回の巡検では露頭だけではなく、地形や遺跡なども含めた第四紀研究の「主要サイト」を訪ね、次代を担う若い研究者や大学院生・学生とともに、模式サイトで従来の知見を伝え、そこからどのような情報が得られ、何が明らかにされ、どのような課題が残されているのかを学びとること、そして、広く一般の方々にこれらのサイトの重要性和、それを保存することの意義を伝えること、そのためにできることは何かを考えることをテーマにしたいと思います。

主な見学地は立川段丘、多摩丘陵、横浜下末吉台地、三浦半島、相模原、大磯丘陵です。宿舎では模式地の現状と保存を考える夜間集会を

#### 巡検の概要と日程（予定）

8月7日（月）

- 9:00 京王線調布駅北口集合、バスにて巡検
  - ・立川ローム層下部の層序と旧石器時代遺跡（明大調布校地）
  - ・生田緑地における第四紀層の保存：酸素同位体ステージ9の海成層とステージ8のテフラおよび基盤となる前期更新世海成層
  - ・ステージ5e海成層（下末吉層、下末吉面）の現状（横浜）
  - ・ステージ11および前期更新世の海成層と指標テフラ（横浜）
  - ・活断層の活動度と防災を目的とした土地利用（横須賀北武断層）
  - ・三浦半島におけるステージ1および5eの海成層と地形の保存状況
- 宿泊 横浜市緑の協会 上郷森の家（泊）

50周年大会案内

〒247-0013 横浜市栄区上郷町1499-1  
TEL. 045-895-5151

夜間集会：「野外研究上の模式地の現状と保存に向けて」

8月8日(火)

8:30 宿舎発

- ・酸素同位体ステージ2～5の河成段丘地形と堆積物についての最近の知見(相模原)
- ・旧石器時代の住居址状遺跡(相模原)
- ・後期鮮新世の海成層(相模原：中津層)
- ・大磯丘陵におけるステージ1,5a,5e,7.3の海成層と地形, テフラ

・ステージ5e間氷期古土壌(大磯丘陵)

18:00頃 JR新横浜駅解散予定

なお天候・交通事情などにより若干の変更はあり得ることをご承知下さい。

募集人員：35名(大型バス使用)

20名に満たない場合は中止します。

参加費：一般ひとり20,000円，

学生・院生ひとり18,000円程度

(2食付き宿泊費および貸切バス代，高速代，保険代，資料代を含む)

申し込み方法：参加ご希望の方は，7月7日までにE-mail、Faxまたははがきで，以下の項目を案内者の水野までお知らせください。折り返し予約金(10,000円)振込の方法をご連絡します。登録は予約金振込みの先着順とします。電話での受付はいたしません。

氏名

所属(学生の場合は学年も)

連絡先(E-mailまたはFax等)

申込先：水野清秀

産業技術総合研究所 地質情報研究部門  
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1  
中央第7サイト

FAX: 029-861-3653

E-mail: k4-mizuno@aist.go.jp

申し込み締め切り：2006年7月7日(定員に達した場合はこれ以前でも締め切ります)  
申し込み後のキャンセルは7月末日までにご連絡いただいた場合に限り申込金をお返しします。

7. 連絡・問い合わせ先

各項目でふれた連絡・申込み先以外につきましては，下記担当者までお問い合わせ下さい。

会場・記念式典・50周年記念事業全体  
日本第四紀学会 50周年記念事業実行委員会  
事務局 事務局長 山崎晴雄

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京 都市環境学部地理学教室

E-mail: yamazaki@comp.metro-u.ac.jp

TEL: 0426-77-2592 FAX: 0426-77-2589

一般研究発表(ポスター)

日本第四紀学会行事担当幹事 遠藤邦彦

〒156-8550

東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部地球システム科学科

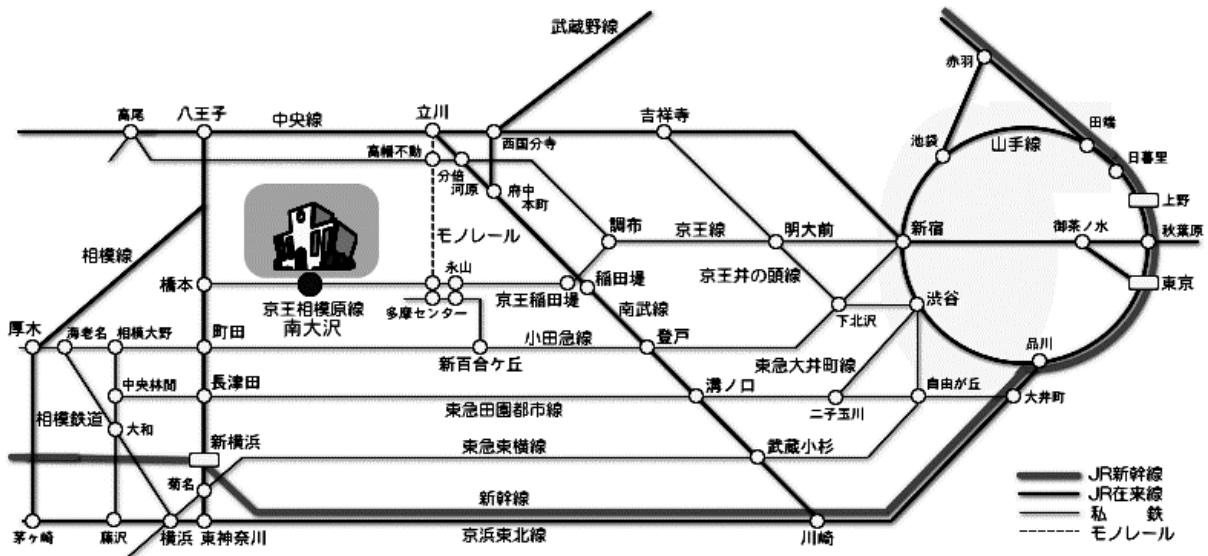
E-mail: endo@chs.nihon-u.ac.jp

TEL & FAX: 03-3290-5451 (研究室)

8. 宿泊

次ページにホテル案内を再掲載します。

最寄駅はアクセスマップ等を参照して下さい。



最寄り駅	ホテル名	電話番号	ホームページ	料金(参考)
京王・小田急線多摩センター駅	ウェルサンピア多摩	042-376-8511	<a href="http://www.kjp.or.jp/hp_65/index.htm">http://www.kjp.or.jp/hp_65/index.htm</a>	7,900 ~
	京王プラザホテル多摩	042-374-0111	<a href="http://www.keioplaza.co.jp/tama/index.htm">http://www.keioplaza.co.jp/tama/index.htm</a>	10,500 ~
京王線調布駅	ホテル・ツインズ東京調布	0424-99-0330	<a href="http://www.hotel330.co.jp/hotels/2158/index.html">http://www.hotel330.co.jp/hotels/2158/index.html</a>	8,000 ~
	調布クレストンホテル	0424-89-5000	<a href="http://crestonhotel.co.jp/chofu/index.html">http://crestonhotel.co.jp/chofu/index.html</a>	10,185 ~
JR, 京王線橋本駅	橋本パークホテル	042-774-6112	<a href="http://www.hashimoto-park.co.jp/">http://www.hashimoto-park.co.jp/</a>	6,300 ~
	橋本シティホテル	042-774-8100	<a href="http://www.hashimotocityhotel.com/">http://www.hashimotocityhotel.com/</a>	6,630 ~
多摩都市モノレール高幡不動駅	シティホテル高幡	042-591-1121	<a href="http://www.ch-takahata.jp/">http://www.ch-takahata.jp/</a>	7,800 ~
JR 横浜線淵野辺駅	相模原第一ホテル	042-751-6551	<a href="http://www.sagamiharadaiichi-hotel.com/">http://www.sagamiharadaiichi-hotel.com/</a>	6,510 ~
JR 横浜線古淵駅	相模原第一ホテル ANNEX	042-757-6551	<a href="http://www.sagamiharadaiichi-hotel-annex.com/">http://www.sagamiharadaiichi-hotel-annex.com/</a>	6,720 ~
JR 八王子駅	京王プラザホテル八王子	0426-56-3111	<a href="http://www.keioplaza.co.jp/hachioji/index.html">http://www.keioplaza.co.jp/hachioji/index.html</a>	13,382 ~
	マロウドイン八王子	0426-23-7111	<a href="http://www.toto-motors.co.jp/marroad/hachioji/">http://www.toto-motors.co.jp/marroad/hachioji/</a>	6,900 ~
	八王子プラザホテル	0426-46-0111	<a href="http://www.hachioji-plaza.co.jp/index.htm">http://www.hachioji-plaza.co.jp/index.htm</a>	8,400 ~
	シーズイン八王子	0426-25-0051	<a href="http://www.csinn.co.jp/">http://www.csinn.co.jp/</a>	6,825 ~
	サンホテル八王子	0426-44-4141		6,300 ~
	セントラルホテル八王子	0426-25-1311		6,000 ~
	八王子スカイホテル	0426-23-1100		6,300 ~
	三恵シティホテル八王子	0426-22-3388		6,090 ~

## 日本第四紀学会 2006年創立50周年大会シンポジウムのお知らせ 「人類の環境を第四紀学から考える - 過去から見た現在と未来」

### シンポジウムの趣旨

日本第四紀学会は2006年春に創立50周年を迎えました。この50年間に社会は大きく変化し、人間の活動は自然環境を大きく変化させました。その結果一部では我々人類の生存を脅かす事態も発生しています。

第四紀学は人類が進化・発展してきた過去260万年間の環境を詳細に明らかにして、その変化の原因やメカニズムを探ろうとする科学です。このような過去の情報は地球環境の現在の位置づけを明らかにすると共に、将来の変化を展望することができます。よりよい未来を築いていくために、第四紀学に課せられた使命は決して小さくありません。

日本第四紀学会は創立50周年を契機に、過去の知識の蓄積を踏まえて新たな研究の展開をはかるため、2006年大会においては記念シンポジウム「人類の環境を第四紀学から考える - 過去から見た現在と未来」を企画しました。ここでは現在の第四紀学における主要な課題を4つのセッションに分け、延べ3日間に亘る研究発表と討論を行うことにしています。このシンポジウムに多くの方の参加をお願いいたします。

この他、50周年記念行事として、記念式典、記念出版、巡検、博物館との連携事業、そして2007年8月にはアジアに目を向けた国際シンポジウムの実施を計画しています。人類の未来を考える第四紀学の発展のため、皆様の一層のご支援・ご協力をお願いいたします。

8月4日(金) 13:00-13:10 開会あいさつ, シンポジウム全体の趣旨説明  
「人類の環境を第四紀学から考える - 過去から見た現在と未来」

シンポジウム1:「最終氷期から完新世への急激な環境変動と人類」

8月4日(金) 13:10-18:00

世話人: 遠藤邦彦(日本大), 斎藤文紀(産総研), 小野 昭(首都大), 松浦秀治(お茶の水女子大)

趣旨: アジア・モンスーン変動の開始とその展開において第四紀が占める位置を明確にしなから, 最終氷期から完新世にいたる急激な環境変動と人類・文化の変遷について, 近年の国際的な動向や最新の知見を交えて報告する. 前半ではステージ3やステージ2を中心に, 後半はステージ2から1への急激な環境変動に焦点をあて, 環境変動が人類の活動とその展開にいかに関わったかを中心に議論する.

- |       |             |   |
|-------|-------------|---|
| S1-01 | 13:10-13:15 | 趣旨説明  |
| S1-02 | 13:15-13:45 | 急激なモンスーン変動の開始, 時代変化と海洋環境へのインパクト<br>多田隆治(東京大)  |
| S1-03 | 13:45-14:05 | サンゴと南極氷床~熱帯サンプルに記録された北半球および南極氷床の変動<br>横山祐典(東京大)   |
| S1-04 | 14:05-14:25 | 日本の氷河作用研究: 近年の進展と展望<br>平川一臣(北海道大)   |
| S1-05 | 14:25-14:55 | 酸素同位体ステージ3問題と旧石器文化<br>小野 昭(首都大)   |
| S1-06 | 14:55-15:15 | 日本列島の"旧石器時代人骨"の現状と課題<br>松浦秀治(お茶の水女子大)   |
| S1-07 | 15:15-15:35 | 最終氷期末の日本列島における人類文化の諸問題<br>堤 隆(浅間縄文ミュージアム)   |
|       | 15:35-15:50 | (休憩)  |
| S1-08 | 15:50-16:20 | 最終氷期最盛期以降の海面変動の沿岸環境への影響と堆積物<br>斎藤文紀(産総研)  |
| S1-09 | 16:20-16:50 | 退氷期の日本に見られる, メカニズムと時間スケールの異なる二種類の気候変動: 高分解能の花分析と定量的気候復元によって何が分かるか<br>中川 毅*(ニューキャッスル大) *招待講演 |
| S1-10 | 16:50-17:10 | 日本列島の最終氷期~完新世の哺乳類: 動物相の変化, 絶滅現象および陸橋・氷橋問題<br>河村善也(愛知教育大)                                    |
| S1-11 | 17:10-17:30 | 完新世における縄文時代の放射性炭素年代と植物質食料資源利用<br>工藤雄一郎(都立大)   |
| S1-12 | 17:30-17:50 | 放射性炭素年代測定の高精度化と年代較正<br>中村俊夫(名古屋大)   |
|       | 17:50-18:00 | シンポジウム1のまとめ   |

シンポジウム2:「鮮新・更新世の日本列島」

8月5日(土) 9:00-11:30

世話人: 真野勝友, 河村善也(愛知教育大), 熊井久雄(大阪市立大名誉教授)

趣旨: 最近国際層序学委員会から“Quaternary”の定義について新しい年代区分が提案され, 各国・地域で検討が進んでいる. これに関連し日本列島で新しい定義による“Quaternary”の基底(ガウス/松山境界)がどこに認められるか, またどのような意味を持つかについて, 岩相層序, 生層序, 古地磁気層序などから検討したい.

- |       |             |  |
|-------|-------------|--|
| S2-01 | 9:00-9:20   | 第四紀層序問題(問題提起と現状)<br>熊井久雄(大阪市立大名誉教授)            |
| S2-02 | 9:20-9:40   | 広域テフラによる鮮新・更新統の対比<br>長橋良隆(福島大)                 |
| S2-03 | 9:40-10:00  | 地磁気極性でさぐる第四紀の日本列島, アジアの黎明<br>兵頭政幸(神戸大)         |
| S2-04 | 10:00-10:20 | 鮮新・更新統の長鼻類化石<br>樽野博幸(大阪市立自然史博)                 |
| S2-05 | 10:20-10:40 | 鮮新・更新統の植物化石層序<br>百原 新(千葉大)                     |
| S2-06 | 10:40-11:00 | 日本海拡大以降のテクトニクスからみた関東平野の活構造<br>高橋雅紀*(産総研) *招待講演 |
|       | 11:00-11:30 | 総合討論   |

## シンポジウム3：「過去の間氷期の研究から今後の地球環境の変遷を考える」

8月6日(日) 9:00-12:00

世話人：町田 洋(都立大名誉教授)・松島義章(放送大)・渡邊眞紀子(東京工業大)・鈴木毅彦(首都大)

趣旨：氷床コアや海底コアの研究からは、完新世の温暖な気候・海面環境は第四紀の中で異例に長く安定したものであったと考えられている。この環境が将来どのように変わるかは、まず過去何回か繰り返された間氷期の変遷とその原因を解明し比較することから予測されるであろう。それは増大する人間活動の影響を考える場合の基礎となるに違いない。

- S3-01 9:00-9:10 趣旨説明
- S3-02 9:10-9:40 海洋底コアのステージ 11, 5e, 1 の比較  
大場忠道(北海道大名誉教授)
- S3-03 9:40-10:05 過去の間氷期の地層情報からみた現在 増田富士雄(同志社大)
- S3-04 10:05-10:30 氷期サイクルモデリングにおける間氷期の再現性と間氷期の決定要因 阿部彩子(東京大)
- 10:30-10:40 (休憩)
- S3-05 10:40-11:00 花粉層序によるステージ 11, 5e, 1 の比較  
奥田昌明(千葉県立中央博)
- S3-06 11:00-11:20 古土壌の性状にみる温暖期と土壌生成作用  
渡邊眞紀子(東京工業大)
- S3-07 11:20-11:40 Uシリーズ法による年代測定の問題点と間氷期についての最近の成果 大村明雄(金沢大名誉教授)・佐々木圭一(金沢学院大)・稲垣美幸(金沢大)
- 11:40-12:00 総合討論

## シンポジウム4：「環境問題・自然災害を第四紀学から考える」

8月6日(日) 13:30-17:00

世話人：山崎晴雄(首都大)・三田村宗樹(大阪市立大)・杉山雄一(産総研)・久保純子(稲田大)・水野清秀(産総研)

趣旨：地球温暖化、開発による生態系の破壊・汚染の進行、放射性廃棄物処分などの環境問題や地震・火山噴火・豪雨などによる自然災害は私たちの生活にとって深刻な問題である。それらの解決にむけて第四紀学はどのように貢献することができるであろうか。本シンポジウムでは第四紀学からの様々な研究の現状を紹介し、将来予測の可能性や課題などについて議論する。

- S4-01 13:30-13:35 趣旨説明
- S4-02 13:35-13:55 地球温暖化と水循環の変化  
増田耕一(地球環境フロンティア研究センター)
- S4-03 13:55-14:15 第四紀の氷床変動と地球回転変動・最近の海面上昇  
中田正夫\*(九州大) \*招待講演
- S4-04 14:15-14:35 海域開発に伴う沿岸域生物群集の変化 佐藤慎一(東北大)
- S4-05 14:35-14:55 池堆積物に記録された人間活動による環境変化  
吉川周作・石竹美帆・村上晶子(大阪市立大)
- S4-06 14:55-15:15 平野部の開発と地盤災害 三田村宗樹(大阪市立大)
- 15:15-15:30 (休憩)
- S4-07 15:30-15:50 地層記録に基づく海溝型巨大地震の長期予測 藤原 治(産総研)
- S4-08 15:50-16:10 テフラからみた爆発的火山噴火の頻度と規模 鈴木毅彦(首都大)
- S4-09 16:10-16:30 まとめ・環境問題への第四紀学の役割 - 放射性廃棄物処分問題などを例にして - 山崎晴雄(首都大)
- 16:30-17:00 総合討論

## 日本第四紀学会50周年記念展示と豊橋市自然史博物館特別企画展



50周年記念事業実行委員会では、その事業の一環として学会の50周年を記念し学会の活動を紹介します。展示を関東、中部、関西の各地区1ヶ所の自然史系博物館を会場として行うことに致しました。学会のこれまでの歩みや現在の姿、あるいは今後の展望など学会活動全般について、会員だけでなく広く一般の方々にも知っていただくことがその目的です。今回はその第1弾として、中部地区の豊橋市自然史博物館に会場をお借りして、そのような展示を行います。その後は、関西地区の兵庫県立人と自然の博物館と関東地区の産業技術総合研究所地質標本館で同様の展示を行う予定になっています。

今回、学会の展示を行う豊橋市自然史博物館では、市制施行100周年を記念して特別企画展「恐竜と生命の大進化 - 中国雲南5億年の旅 -」が7月14日から開催されます。この特別企画展では、日本文化のルーツがある中国雲南省について、カンブリア紀の生物の大爆発、ジュラ紀の巨大恐竜、アジアでの人類進化に焦点を当てて、雲南の自然や生物進化のドラマが紹介されます。そのうち、アジアの人類進化は、まさに第四紀に関する展示で、前期更新世の人類化石産地として有名な雲南省元謀の化石が多数展示されます。元謀人の化石（レプリカ）をはじめ、多くの哺乳類化石、例えば前期更新世の中国南部に特徴的な雲南馬（*Equus yunnanensis*）の保存の良い頭骨化石なども見ることができます（写真）。

第四紀学会の50周年記念展示は、この特別企画展会場の入口付近に設置されます。会員の皆様には是非この機会に豊橋市自然史博物館を訪れていただき、学会の活動についての認識を深めていただくとともに、博物館の特別企画展を見学していただきたいと思います。豊橋市自然史博物館の住所・電話番号と、学会の記念展示および特別企画展の開催期間は以下のとおりです。同博物館の詳細についてはホームページ（<http://toyohaku.gr.jp/sizensi>）をご覧ください。

住所：愛知県豊橋市大岩町大穴1-238（JR東海道線二川駅下車徒歩約6分）

電話：0532-41-4747

開催期間：2006年7月14日（金）～10月9日（月：祝日）



## 独立行政法人国立環境研究所公開シンポジウム2006 『アジアの環境と私たち - もう無関心ではいけない - 』

国立環境研究所では、毎年6月の環境月間にあわせて、公開シンポジウムを開催しています。今年は自然と社会経済活動を通じたアジア地域とわが国との相互作用、すなわちわが国の環境がアジア地域から受ける影響、また逆に私たちの暮らしがアジア地域の環境に与える影響について、これまでの国立環境研究所の研究成果をもとにわかりやすくご紹介します。

1. メインテーマ：「アジアの環境と私たち - もう無関心ではいけない - 」
2. 内 容：大塚柳太郎理事長による基調講演および国境を越える廃棄物や大気汚染の問題、温暖化がアジアの生態系や人の健康に与える影響に関する講演4件と研究者自らがパネルを用いて直接、対話しながらご説明するポスターセッションを予定
3. 日時・会場
  - (1) 京都会場  
開催日時：平成18年6月4日(日)12:00～17:00  
開催場所：シルクホール(京都市下京区四条通室町東入ル 京都産業会館8階)  
定 員：約700名  
アクセス：京都市営地下鉄烏丸線四条駅・阪急京都線烏丸駅より徒歩3分
  - (2) 東京会場  
開催日時：平成18年6月18日(日)12:00～17:00  
開催場所：メルパルクホール(港区芝公園2-5-20)  
定 員：約1,200名  
アクセス：JR浜松町駅より徒歩10分/都営三田線芝公園駅より徒歩2分/都営浅草線・大江戸線大門駅より徒歩4分

公開シンポジウムに関する情報は随時次のwebページに掲載いたします。

(<http://www.nies.go.jp/sympo/2006/index.html>)

また、昨年度開催の公開シンポジウム2005の様子は、動画で次のwebページに掲載しています。( <http://www.nies.go.jp/sympo/2005/index.html> )

参加御希望の方は、参加希望会場(東京・京都)、住所、氏名、年齢、職業、連絡先(電話番号、FAX番号、E-mailアドレス等)を明記の上、下記あてにE-mail、FAX又は葉書にてお申し込みください。折り返し、参加票をお届けします。また、上記webページからも参加登録が可能です。参加費は無料です。

国立環境研究所公開シンポジウム2006登録事務局  
〒105-0003 東京都港区西新橋1-7-2 虎ノ門高木ビル  
株式会社インターグループ内  
TEL: 03-3597-1129, FAX: 03-3597-1097  
E-mail: [nies2006@intergroup.co.jp](mailto:nies2006@intergroup.co.jp)

## 市民フォーラム 野川流域の旧石器時代

### - 明治大学調布付属校用地内の遺跡調査から -

#### \*趣 旨

2005年8月より開始された調布市・三鷹市所在の明治大学調布付属校用地の遺跡(仮称)の調査は、近年まれに見る規模となっております。調布市教育委員会、三鷹市教育委員会、明治大学校地内遺跡調査団では、そうした成果を広く一般に公開するとともに、野川～多摩川間の立川面を中心とした周辺の調査状況と、地形・環境・人間活動について総合的に検討する場を設けるために、下記のとおり、市民フォーラムを開催することといたしました。

#### \*プログラム1 遺跡発掘調査現地説明会

- ・日 時：2006年7月15日(土) 10:00～11:30
- ・会 場：明治大学調布付属校用地 京王・小田急バス「大沢コミュニティセンター」下車徒歩3分  
駐車場がありませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。

#### \*プログラム2 講演会「旧石器時代の研究 - 野川から日本、そして世界へ - 」

- ・日 時：2006年7月15日(土) 13:30～16:00
- ・会 場：調布市グリーンホール 小ホール(京王線「調布」駅南口下車徒歩1分)
- ・定 員：先着250名
- ・参加費：¥500(資料代)
- ・内 容：遺跡調査報告、鈴木次郎、安藤政雄両講師による講演

#### \*プログラム3 公開シンポジウム「野川流域の旧石器時代 - 地形・環境の変遷と人びとの生活 - 」

- ・日 時：2006年7月16日(日) 10:00～16:00
- ・会 場：調布市文化会館たづくり 8F映像シアター
- ・定 員：先着80名
- ・参加費：¥500(資料代)
- ・内 容：野川流域の旧石器時代遺跡(藤田健一・小池 聡) / 野川・多摩川中流域の古地形と古環境(上杉 陽・久保純子・中井 均) / 旧石器人の生活空間(下原裕司・中山真治・加藤秀之) / 総合討論(司会：野口 淳)

#### 問い合わせ先

明治大学校地内遺跡調査団(担当：新井 悟)  
〒182-0033 東京都調布市富士見町4-28-1  
TEL/FAX 0422-34-7495  
e-mail: migas@abelia.ocn.ne.jp

Second Circular March 30, 2006



GLOBAL COMISSION ON  
CONTINENTAL PALEOHYDROLOGY  
GLOCOPH

FLUVIAL SEQUENCES AS EVIDENCE  
FOR LANDSCAPE AND CLIMATIC  
EVOLUTION IN THE LATE  
CENOZOIC – IGCP-518



**PRESENT AND PAST FLUVIAL SYSTEMS: METHODS AND  
APPLICATIONS**

**Guarulhos and Maringá (Brazil)**

**August 25 – September 1, 2006**



**Iguassu Falls - last stop of the field excursion!**



UNIVERSIDADE DE GUARULHOS  
Pós-graduação em Análise Geoambiental



UNIVERSIDADE ESTADUAL DE MARINGÁ  
Programa de Pós-graduação em Ecologia de Ambientes  
Aquáticos Continentais

**Location:**

The Meeting will be held to Guarulhos city in the University Guarulhos. Guarulhos is a satellite city of São Paulo.

**Arriving to Guarulhos :**

In Guarulhos is located the main international airport of Brazil, the International Guarulhos airport where the participants will arrive. The city is connected overseas by the main international airlines. The Guarulhos University is located about 15 minutes by car from the airport. Busses and vans provided by the organization will be waiting for the participants.

**Weather conditions:**

Weather in Guarulhos at meeting time is normally mild and relative dry with temperature ranging from 25 to 15 . Excursion region is a little bit warm than Guarulhos and you have to be prepared for eventual light rains. We recommend using of sun protector, insect repellent and a hat. It is also necessary immunization against yellow fever.

**Registration Fees in US dollars:**

Two options are offered to the participants:

- a) Participation in the meeting at Guarulhos including a half day excursion to Tietê River from August 25 to 28.
- b) Participation of the full program including the meeting at Guarulhos University plus the field trip to the Paraná basin from August 25 to September 1.

**Option A (meeting at Guarulhos). Price do not include hotel and meals**

Categories	Until May 31
Professional	160 USD
Students	75 USD
Accompanying members	75 USD

**Option B, full program (meeting plus field excursion to Paraná River). The full program include hotel and meals during field excursion, but do not include hotel and meals during the conference in Guarulhos**

Excursion + meeting	650 USD
---------------------	---------

The participants will stay at the field station of the NUPELIA/University of Maringá, Brazil, on the Paraná River, one of the largest fluvial systems around the world. The base is located to 200km from Maringá and offers the entire necessary infrastructure for lodging and research.

The last nigh will be spend in a hotel at Foz do Iguaçu city.

The price includes all the costs such as lodging, alimention and transportation. Air tickets from São Paulo to Maringá and from Maringá or Foz do Iguaçu to São Paulo are also included.

**\*Suggestion:** the GLOCOPH Meeting is related to the IAG Regional conference that will be held at Goiania city from September 3 to 10 (see first circular in the IAG web site <http://www.geomorph.org/main.html> ). If some researchers intend to attend both meetings we suggest acquiring an aerial “Brazil Pass” which permits to travel along the country at low cost.

This pass only can be bought outside Brazil. If you chose this option, please communicate it to us because we will be in conditions to offer a special low price of 450 USD for the full program (meeting plus field trip to the Parana River)

**Payment:**

Brazil residents should to do a payment order to: Banco Real, ag. 0544, Guarulhos \_Ponte Grande, c/c 5.727108-9  
Name: Jose C. Stevaux and/or Antonio R. Saad

Please send a fax or electronic message of the bank's receipt to: 0 X 11 6464 1758

Not residents in Brazil you can:

- a) Send a payment order to the same account above, or
- b) To confirm your participation and pay fee registration on August 25 during the afternoon. It is preferable the second option.

### **Hotel and reservations:**

Guarulhos has a large number of hotels of different categories and prices. The Hotel Domani is a comfortable and relative low expensive hotel located 100 m from the conference auditorium. Don't forget to indicate in the registration form your preference for the Hotel Domani for booking. Please, remember that you will pay the hotel during the conference. It is not possible to pay in advance.

Single room with breakfast-----R\$ 65 (US\$ 30)\*

Double room with breakfast-----R\$ 80 (US\$ 36) \*

Hotel and food costs are not included in fee registration

\* Prices could be a little modified at meeting period

### **Abstract submission:**

The authors need to submit obligatorily an abstract up to May 31. An author can present at maximum two abstracts as first author.

Abstracts: It will be presented in A4 format including: title in capitals, author (s) by family name followed by initial letter of surnames all in capitals (s) and professional address with emails, all centralized. Format and structure suggested to the text: text of Abstract with 300 to 800 words and 3 to 5 key words, elaborated in Word without visible boards and internal lines. The text will be written in Times New Roman 12, space 1, 5 and lateral spaces 2, 5.

Posters: The authors can choose between oral session and poster sessions. However note that all the participants need to submit respectively the abstract(s). The size of the poster should be 1.5m length and 1 m width.

Please send the abstract to [jcstevaux@uem.br](mailto:jcstevaux@uem.br) or [jstevaux@prof.ung.br](mailto:jstevaux@prof.ung.br)

### **CONFERENCE PROGRAM**

- Aug 25 : Arrive to Guarulhos. Secretary business. Open Ceremony at the University Guarulhos, Guarulhos at 07 PM. Cocktail-Reception.
- Aug 26-27 : Open conference. Oral presentations. Fraternization dinner.
- Aug 28 : Half day excursion to Tietê River Revitalization Project.  
Flight to Maringá (700 km from Guarulhos)

### **FIELD EXCURSION PROGRAM**

- Aug 29 : Bus to Porto Rico Field Station of the University of Maringá (200km) and field work in the Parana River by boat.
- Aug 30/31 : Paraná-Parapanema Rivers confluence reach by boat and Parana alluvial plain by bus.  
Bus to Foz do Iguaçu
- Sept 1 : Visit to Itaipu Dam and to Iguaçu Falls. End of the excursion.
- Sept 2 : Return to Maringá by bus or flights to Goiânia (see \*Suggestion) or São Paulo.

### **Excursion summary**

Paraná River floodplain: During the field excursion will be visited the typical expositions of the Quaternary fluvial sediments and terraces.

Eolian land forms developed on fluvial terraces during the Middle Holocene will be analyzed. Details on architectural sedimentology and reconstruction of paleohydrological signals of the Holocene will be a main topic to be discussed in the field trip.

Human impact and river management: The river suffering dramatic human impacts by building of huge

dams. Dams regulate water flows and trap more than 80% of the fluvial sediments. The visited reach is under impact of two large dams: Porto Primavera and Itaipu Dams. We will see the geomorphological and ecological impacts downstream Porto Primavera Dam at Porto Rico area. Itaipu Dam, one of the largest of the world, will be also visited. Considering that we enjoy nice rivers and beautiful landscapes, we will finish the trip admiring the amazing Iguacu Falls.

**CONTACTS AND REGISTRATION:**

Prof. Jose C. Stevaux  
 Universidade Guarulho  
 Pr. Tereza Cristina, 1  
 07023-070-Guarulhos, SP, Brazil  
 phone/fax: 55-11 64641508  
 jcstevaux@uem.br    jstevaux@prof.ung.br

.....  
**Registration Form**

Please copy, fill and send it to us by e-mail [jcstevaux@uem.br](mailto:jcstevaux@uem.br) or [jstevaux@prof.ung.br](mailto:jstevaux@prof.ung.br)

<b>Name (complete)</b>		
<b>Institution</b>		
<b>Address</b>		
<b>Phone/fax</b>		
<b>E mail</b>		
<b>Title of the Abstract to be Presented (1)</b>		
<b>Title of the Abstract to be presented (2)</b>		
<b>Type of presentation</b>	Abstract 1	Abstract 2
	Oral ( )    Poster ( )	Oral ( )    Poster ( )
<b>Program</b>	A) meeting at Guarulhos ( )	My attendance at the excursion is: Very probable ( ) Probable ( )
	B) meeting plus Excursion to Parana River ( )	
<b>Accompanying person (name)</b>		
<b>Additional comments?</b>		
<b>Date of registration</b>		

## 地球化学研究協会「三宅賞」候補者の募集

地球化学研究協会 理事長 飯山 敏道

2006年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者を募集します。学会としてのご推薦、または個人会員からのご推薦のいずれからでもお受けします。下記の要領でご応募下さい。

### 記

#### 2006年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者の募集

地球化学研究協会より、「三宅賞」および「奨励賞」候補者の推薦を依頼します。下記の要領で応募して下さい。申請書類は、地球化学研究協会のホームページからダウンロードして下さい。

#### 1. 三宅賞

対 象 : 地球化学に顕著な業績をおさめた研究者

表彰内容 : 賞状、副賞として賞牌および賞金 30 万円、毎年 1 件 (1 名)

#### 2. 奨励賞

対 象 : 推薦締切日に 35 才以下で、地球化学の進歩に優れた業績を挙げ、将来の発展が期待される研究者

表彰内容 : 1 件 10 万円、毎年 1 件 (1 名)

#### 3. 応募方法 : 申請書に略歴、推薦理由、研究業績などを記入し、主な論文 10 編程度 (三宅賞) 2 編程度 (奨励賞) をそえて、下記のあて先へ送付して下さい。なお、応募書類は、三宅賞等選考のためにのみ選考委員会で用いられます。

#### 4. 締切日 : 2006 年 8 月 31 日

#### 5. 地球化学研究協会ホームページ : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/gra/>

#### 6. 応募先 : 〒100-8212 東京都千代田区丸の内 1 - 4 - 5

三菱 UFJ 信託銀行株式会社リテール統括部受託財産管理ライン

(公益信託) 地球化学研究協会 江川

#### 7. お問い合わせ : 庶務担当まで、電子メール (t-sagi@ka5.koalanet.ne.jp) でお願ひします。

## 元評議員芹沢長介先生のご逝去を悼む

日本第四紀学会元評議員、芹沢長介先生は、2006年3月16日にご逝去されました。享年86歳でした。ここに、謹んで哀悼の意を捧げます。先生は、本会の設立発起人のお一人であり、1959年から1989年まで、評議員を13期28年にわたって務められ、旧石器研究の分野から本会の発展に多大な貢献をなされました。

考古学少年であった先生は、青年時代に土門拳の門をたたき写真家を目指すものの、考古学の道からは離れられず、20代半ばで明治大学に入学されました。先生らによる1949年の群馬県岩宿遺跡の発掘調査により、日本の旧石器研究が産声をあげたことは、考古学研究史に大きな足跡を残しています。1963年には東北大学考古学研究室に着任されてからは、長崎県福井洞窟や大分県岩戸遺跡など全国の旧石器時代遺跡の発掘を手がけられ、日本の旧石器時代の様相を着実に解明されていきました。1984年に東北福祉大学で教授となられてからも、ロシア沿海州での発掘調査を行うなど、老いを知らぬ研究活動に邁進されました。

先生の研究では、日本列島における3万年以前の人類の痕跡を探る「前期旧石器」研究が、ひと際、輝いています。世界的な位置づけでの考察、理化学的手法の活用、統計処理による証明など、現在の考古学研究の科学的手法を率先して導入されました。

先生は陶磁器研究にも並々ならぬ熱意を示され、また、父である型絵染の人間国宝・芹沢「金へんに圭」介氏の顕彰活動にも取り組まれました。芸術家としての血筋が、著作物のデザインや写真などに滲み出ており、読者などに深い感慨を覚えさせたものです。

先生の精力的な研究活動の傍ら、私ども門下生はもとより全国の意欲ある若手研究者に対し、厳しくも温かく熱心なご指導をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。生前の先生の語りつくせぬご偉業を私どもの財産とし、一層の日本旧石器研究に邁進する所存であります。パイプの香り、廊下を歩く靴音、石器を見つめる眼差し・・・杜の都での研究室のご様子が、つい昨日のように脳裏をかすめます。どうぞ、今後の私たちの研究活動を天上よりお見守りください。

奥村（松島）吉信



## 日本第四紀学会 50周年事業に関わる募金のお願い（再掲）

2006年5月1日

日本第四紀学会会員各位

日本第四紀学会 会長 町田 洋  
50周年記念事業実行委員会 委員長 熊井久雄

日本第四紀学会 50周年事業に関わる募金のお願い

日本第四紀学会では2006年4月に創立50周年を迎えることから、50周年記念事業実行委員会を発足させて準備活動を進めているところです。この事業では、記念出版物の刊行、記念式典、記念シンポジウム、国際シンポジウム等の実施を計画しています。

財政的に非常に厳しい折、諸行事はできるだけ簡素に、そして受益者負担の原則で実施する所存ですが、国際シンポジウムにつきましては、日本の第四紀学を世界へ展開させるために、そして、アジア地域の第四紀研究との連携をはかるため、2007年8月にアジア各国の代表を招いて21世紀にふさわしい会合を開催の予定です。

このため国際シンポジウムを含めた50周年記念事業の実施に必要な資金を得るため、会員の皆様に下記の要領で募金をお願いする次第です。募金の趣旨と学会の厳しい財政状況をご拝察の上、日本第四紀学会発展のために是非ご協力賜りますようお願い申し上げます。

3月1日現在で約90名の会員のご寄付をいただいております。ご協力いただきました会員の皆様にはお礼申し上げますとともに、これを機会に未加入の大学院生や若手の方々にもご入会を勧めただければ幸いです。

### 記

募金目標は500万円です。1口5,000円で募金口数に制限はありません。

募金は、郵便振替にて下記の口座にお振り込み下さいますようお願いいたします。（第四紀通信2月号に同封した募金専用の振り込み用紙をご利用いただくと送金料が無料になります。）

口座記号番号（募金専用） 00120-3-614754

加入者名 日本第四紀学会 50周年記念事業実行委員会

2口（10,000円）以上募金していただいた会員には、記念品（「第四紀研究」全巻をPDF化したCD：非売品、会員限定）を差し上げます。記念品CDは現在製作中ですが、7月15日までにお振り込みいただいた方には、8月4日～6日に開催の50周年記念大会（首都大学東京）会場で記念品をお渡しすることができます。

（問い合わせ先）

首都大学東京 都市環境学部地理学教室 山崎晴雄（50周年実行委 事務局長）

Tel：0426-77-2592 Fax：0426-77-2589

e-mail：yamazaki@comp.metro-u.ac.jp

## 50周年記念事業募金者名簿（敬称略、2006年4月30日現在）

以下の皆様より募金をいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

50周年記念事業実行委員会

増田耕一、熊井久雄、杉山富雄、三川憲一、金子 稔、水野篤行、松井 健、垣見俊弘、亀井裕幸、竹中 純、田中治夫、平井幸弘、古川博恭、千田 昇、大澤 進、松葉千年、満岡孝、中島光世、今泉知也、青木賢人、三島弘幸、鹿島愛彦、桑島 達、鈴木 茂、野中俊夫、豊田和広、吉田 義、守田益宗、松橋義隆、木暮 翠、永井節雄、藤森孝俊、山崎晴雄、奥村晃史、菅 加世子、榎尾重信、田辺 晋、勝田和利、東 将士、三田村宗樹、石井久夫、田口公則、久保純子、島口 点、井上公夫、辻誠一郎、古内栄一、吉川周作、小林武彦、山崎博史、沖津 進、杉村 新、長太伸章、佐藤裕司、荒井 格、植村善博、栗山知士、八千代エンジニアリング総業事業本部、半田久美子、黒田登美雄、兵頭政幸、能條 歩、田原敬治、小池一之、松浦秀治、北村晃寿、早田 勉、倉林三郎、伊藤ツヨシ、井上 弦、藤井昭二、松村 淳、和田温之、松島義章、楡井 尊、斉藤享治、西田和浩、飯島義雄、讃岐利夫、高田将志、長内優之、萩原法子、福岡孝昭、藤森雄一、町田 洋、水野秀明、上原克人、長友恒人、水野清秀、劔持輝久、池田 晋、山口啓子、浅川一郎、松井和夫、廣瀬玉紀、諏訪靖二、坂上寛一、片岡香子、小野弘道、渡邊眞紀子、野川 潔、杉山雄一、浅井朋代、松山澄久、上杉 陽、清水恵助、鈴木毅彦、石綿しげ子、原 芳生、奥野 充、小泉武栄、長橋良隆、小林忠夫、金沢直人、陶野郁雄、楮原京子、檀原 徹、柏谷健二、真野勝友、星野フサ、会田信行、松下まり子、丹羽俊二、山縣耕太郎、遠藤邦彦

以上 125名 総額 152万円

## 2005年度第6回幹事会議事録

日 時：2006年3月3日(金)13:00～18:00

会 場：早稲田大学教育学部地理演習室にて

出席者：町田 洋(会長)、真野勝友(副会長)、斎藤文紀、鈴木毅彦、池原 研、岡崎浩子、兵頭政幸、遠藤邦彦、奥村晃史、水野清秀、中川庸幸(事務局)、久保純子(記録)

(議事)

### 1. 庶務

(1)1/7、1/29 幹事会議事録の確認

(2)1/29 評議員会議事録の確認

(3)第四紀通信12-6の役員名簿の訂正を次号通信に掲載する。

(4)会員消息：2006年1月(入会4、退会4)、2006年2月(入会4、退会6)

(5)2006年日本第四紀学会論文賞選考委員の受諾状況の報告

(6)科研費審査委員候補者として6名の情報提供をおこなった。

(7)引用許可(4件)：『山口県史 通史編』、Omura et al., SPEM Special Publication 85、『推考「古代日本の世界観と出雲大社」』、地盤工学会『ジオテクノート濃尾の地盤』

### 2. 会計

特になし

### 3. 編集

(1)編集状況・今後の予定

(2)45巻1号の印刷ミスについて、原因(電子ファイルのプリンター出力時の解像度)と再発防止策

(3)次回編集委員会は3/18開催予定

### 4. 行事

(1)「第四紀通信」4月号に掲載する夏の大会案内(第2報)の内容について

(2)2007年大会開催地の件

### 5. 広報

「第四紀通信」13-2記事(原稿締め切りは3/7)

### 6. 渉外

(1)連合大会投稿状況、日程、プログラム等の報告

(2)連合大会における評議員会会場と日程の調整

(3)日本学術会議の国際対応についての報告

(4)日本学術会議国際対応連携会員候補者として3

## 名の情報提供

(5)日本学術会議にINQUA 対応小委員会の設立を提案することを承認

## 7. 企画

- (1)1/29 のシンポジウム報告  
(2)7/16-17 の講習会の日程・内容確定

## 8. 50周年記念事業実行委員会

大会プログラムほか進捗状況の報告

## 9. 名誉会員選考委員会の人選

大場忠道・小野 昭・坂上寛一の各会員に委嘱することとした。

## 10. 知的財産権などに関する検討委員会の人選

旧倫理憲章委員会委員と幹事会より、池原 研・上杉 陽・遠藤邦彦・坂上寛一・真野勝友の各会員に委嘱することとした。

## 11. 学会賞等に関する規定改定

(1)スケジュール：幹事会で原案を作成し、5月の臨時評議員会で議論の上、8月の評議員会・総会で承認を受けたい。

(2)他学会の学会賞に関する情報を集めることとした。

## 12. その他

地盤工学会「技術者交流特別セッション」(7/13)に第四紀学会より「沖積層」のセッションを提案し、木村克己会員に世話人を依頼した。

次回幹事会は4月6日(木)、早稲田大学にて開催の予定。

## 2005年度第7回幹事会議事録

日時：2006年4月6日(金)13:00～17:30

場所：早稲田大学教育学部6階資料室にて

出席者：斎藤文紀、鈴木毅彦、池原 研、遠藤邦彦、水野清秀、兵頭政幸、奥村晃史、中川庸幸(事務局)、久保純子(記録)

## (議事)

## 1. 庶務

(1)3/3 幹事会議事録の確認

(2)会員消息：2006年3月(入会4、退会10、逝去2、芹沢長介、綿貫拓野)。芹沢長介元評議員の紙碑を依頼することとした。

(3)論文賞選考委員会：3月末現在で会員からの推薦はなかった。平川一臣、百原 新、河村善也、公文富士夫、福岡孝昭各委員に互選による委員長選出の上、選考を依頼する。

(4)名誉会員選考委員会：第1回委員会を3月27日に首都大学にて開催し、坂上寛一委員長が選出された。第2回委員会は4月11日開催の予定。

(5)知的財産権などに関する検討委員会：第1回委員会は4月11日開催の予定。

(6)臨時評議員会予定：5月15日(月)12:30-13:30、地球惑星科学連合大会会場幕張メッセ会議場301Aにて開催の予定。

(7)引用許可：批評社よりファクシミリによる申請があったため、改めて郵送を依頼する。

## 2. 会計

特になし

## 3. 編集

(1)第四紀研究45巻2号を刊行した。

(2)45巻3号の編集状況、島根大会特集号の状況、その他の特集の企画・立案について打診中。

(3)2006年大会が8月上旬のため、「通信」は次号とは別に7月中旬に配信する。

## 4. 行事

(1)50周年大会：プログラム案の検討、シンポジウムはすべて公開とするが、普及講演会は別に実施する。巡検企画の経過報告。

(2)2007年大会は神戸大学より開催可能の回答があり、2007年8/31～9/2の3日間で会場を仮予約した。兵庫県立人と自然の博物館にも協力を依頼する。

## 5. 広報

(1)第四紀通信第13巻2号を刊行した。

(2)次号(6月号)の原稿締切は5/9。

(3)学会ホームページのデザインの一新についての検討結果が報告され、幹事会で議論した。

## 6. 渉外

(1)地球惑星科学連合『活断層と古地震』への投稿論文の取り扱いについての報告

(2)50周年記念大会の案内のJGU(地球惑星科学連合機関誌)への掲載の件(国際シンポジウム、普及講演会など一般を対象とした企画の案内は掲載可能)

(3)日本地球惑星科学連合男女共同参画委員会(仮称)委員の推薦について審議した。

(4)学術会議の国際対応分科会でINQUA 対応のためのグループ分けについて検討された。

## 7. 企画

(1)7月16・17日の講習会について

(2)今後の企画について

## 8. 50周年記念事業実行委員会報告

大会プログラム等の検討

## 9. 学会賞等に関する規定改定の件

他学会の資料等を持ちより検討した。

次回幹事会は5/6(土)または5/7(日)、早稲田大学にて開催の予定。

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。  
広報幹事：兵頭政幸(mhyodo@kobe-u.ac.jp)宛にメールでお送り下さい。  
第四紀通信は奇数月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 神戸大学内海域環境教育研究センター 兵頭政幸  
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 電話 078-803-5734 Fax 078-803-5757  
広報委員：松下まり子・後藤秀昭 編集書記：岩本容子

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。